

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

| | |
|---------------------------|---|
| 事業課題名 | アジア・イスラーム型発展径路をめぐる国際会議開催に伴う教員招聘 |
| 代表者名 | 小杉泰(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授) |
| 事業概要 (600 字程度) | <p>本事業は、ヨーロッパ主導型の発展径路の対抗テーゼとして、近年、東南アジアで注目が集まっているアジア・イスラーム型発展径路をめぐる問題群を議論する国際会議を開催するものである。会議は、このテーマにおいて代表者の所属する大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(以下、ASAFAS)が長らく学術交流を行ってきたマレーシア国民大学イスラーム文明研究所(以下、IH)との共催によって開催する。</p> <p>ASAFAS では、グローバル地域研究専攻持続型生存基盤論講座における研究・教育を通じて非ヨーロッパ型の発展のあり方を探究してきた。一方、本事業を共催するマレーシア国民大学イスラーム文明研究所は、アジア・イスラーム型発展径路に関する域内随一の研究拠点である。本事業での国際会議の開催によって、非ヨーロッパ型発展径路におけるアジア・イスラーム型発展径路の可能性をより明確に打ち出すとともに、人類が直面する諸課題に対するアジア独自の解決策の提示をめざす(本事業における「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築(ミッション 3)」への貢献)。</p> <p>また、今回の国際会議では、両大学に所属する大学院生にも発表の機会を設ける。これは、海外の第一線の研究者と研究交流の機会を与えるとともに、自らの研究成果の国際発信を行うための訓練の場を提供することを目的としている(本事業における「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成(ミッション 2)」への貢献)。</p> |
| 成果の概要 (800 字程度) | <p>本事業による国際会議は、2014 年 5 月 30 日から 6 月 1 日まで 3 日間にわたって International Symposium on Islam, Civilization, and Science: Islam as a basis for Civilizational Thought and Development の下に開催された。会議には、本事業経費によって招聘した 3 名の教員(Jaffary Awang 教授、Roziyah Sidik @ Mat Sidek 准教授、Mazlan Ibrahim 准教授)に加えて、26 名の研究者がマレーシア国民大学(IH 以外も含めて)が来日し、研究報告を行った。また、京都大学からは、15 名の教員、大学院生が研究報告およびポスター発表を行った。</p> <p>会議では、アジア・イスラーム型発展径路に関する議論だけでなく、西洋文明とは異なる独自性を持つイスラーム文明が、21 世紀の持続可能な地球社会の将来ビジョンにどのように貢献しうるかについても様々な観点から活発な議論が交わされた。例えば、イスラーム世界で急速に勃興しているイスラーム経済(イスラーム金融、ハラール製品、伝統的イスラーム経済制度の復興)が提起している特有の価値(公平性、道徳性など)は、欧米主導のグローバリズムを超越する普遍的な価値を持ちうるのではないかという点が多く参加者から提起された。</p> <p>本会議の開催にあたって、ASAFAS と IH との学術交流を長期的な展望の下で継続的に実施していくための体制作りも整備された。その一環として、マレーシア前首相 Abdullah bin Haji Ahmad Badawi 氏のイニシアティブの下、京都大学にハダリー・イスラーム文明研究センターを設立することが決定された。会議初日(5 月 31 日)には、Abdullah 前首相も臨席し、センター設立準備室設置記念式典が執り行われ、同氏の基調講演がなされた。同センターは、2015 年 4 月 1 日に正式に発足し、本事業を契機として深まった ASAFAS と IH との学術交流が今後ますます発展していくことが期待できる。</p> <p>本事業の教育効果として、会議に参加した本学の大学院生が来日した教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこのような機会を継続的に提供していくことの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会議でもあった。</p> |